

(様式3)

外国人児童生徒等教育アドバイザー派遣結果報告書

都道府県名	新潟県	市町村名	大学名
派遣日	令和2年11月9日(月曜日) 13:30~16:30 13:10~13:30 受付 13:30~13:35 開会 13:40~14:55 日本語指導、支援等に関する講義 14:55~15:05 休憩 15:05~16:15 ワークショップ 及び 質疑応答(相談会) 16:15~16:30 閉会		
実施方法	※いずれかに○をつけてください。 <input checked="" type="radio"/> 派遣 / <input type="radio"/> 遠隔		
派遣場所	新潟県立教育センター(新潟市西区曾和100-1)		
アドバイザー氏名	市川 昭彦 氏(大泉町立北小学校)		
相談者	新潟県教育委員会		
相談内容	「外国人児童生徒に対する日本語指導研修」 (1) 日本語指導が必要な児童生徒に対して、効果的な日本語指導や学習支援の在り方についての講義 (2) 日本語指導の仕方や児童生徒への対応の仕方についてのワークショップ (3) 外国人児童生徒の受入れ、日本語指導、学習指導等に関する悩み相談		
派遣者からの指導助言内容	○ 受け入れの現状と今後(文部科学省:外国人児童生徒受け入れの手引き活用) ○ 日本語能力の診断・測定(DLA)について ○ 個別の指導計画 ○ JSLカリキュラム、AUについて ○ JSLカリキュラムに基づいた授業づくり(社会科、算数の実践) ○ ワークショップ(I先生の悩みにみんなで課題を洗い出し、解決策を考える) ○ 質疑応答		
相談後の方針の変化、今後の取組方針等	<p><受講者の感想></p> <p>・非常に具体的かつイメージのしやすい講義で、実践に生かしていきたいものばかりであった。現在、中学校の教科担任制における教員間連携に難しさを感じている。しかしながら、今回の講義をとおして、子どもや他の教員との関わりやつながりを強くするため、もう一步踏み込んでいきたいと感じた。</p> <p>・日常言語と学習言語を同時に学んでいくことが重要だと感じた。当自治体では、日本語支援員が学校の教職員ではないので、どこまで支援して教科学習を行うのか、しっかりコーディネートしなければならないと感じた。</p> <p>講師の高い見識と豊かな経験に基づいた具体的な内容の講義から、受講者は自分自身の現状と結び付けながら多くの学びを得た。</p> <p>外国人児童生徒に日本語指導・学習指導を行っている担当者や学校自体がもつ課題を県教育委員会として把握できた。研修効果、及び学校現場のニーズも高いことから、研修等の開催を中心に、ICTを活用した支援の在り方も検討しながら市町村教育委員会や学校の支援を続ける。</p>		